

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500425		
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		
事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町受理日	平成23年2月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設です。「障害者と高齢者のふれあいの館」として、ごく自然な形で互いに支え合っています。特に昨年度開催の「いこい祭り」が「白鳩祭」に改名され、「障害者と高齢者」から地域を巻き込んだお祭りへと盛大に開催されようとしています。また、隣接の小規模多機能型居宅介護いこいの郷白鳩との交流も常にあり、グループホーム入居希望の方が長期滞在型でご利用になっています。「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある暮らしをしたい。」「そんな誰もが願う普通で当たり前の生活を送っていただきたいと小規模多機能を展開しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会や老人会との連携を図られており、地域住民や関連機関とのつながりが年々深まり、母体施設と共に地域に開かれた重要な拠点として理解されています。定期的なマニュアルの見直しや年間を通しての計画的な研修の実施は事業所全体のサービスの質の向上や職員のスキルアップにつながっています。転倒リスクスコアシートを活用しての転倒防止対策では、安全面の確保に成果を上げておられ、利用者一人ひとりにあわせた事故防止に取り組まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何をベースに判断すべきか常に立ち戻れるように、月1回の職員会議や申し送りノートなどで確認し合い共有している。また、名札裏に介護理念と今年度の方針を掲げ、各々の意識付けに役立っている。	「地域とのふれあいの中で、助け合い、暮らし合う」という事業所理念をホ - ム内に掲示し、月1回の職員会議等で共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暮らしの中で利用者が地域行事にごく自然に参加できるよう、地元の活動や交流を大切にしている。また、地域向け回覧版で事業所情報やボランティア依頼などを行い日常的に交流している。	小学校の運動会、文化祭、ふれあいまつり、いきいきサロン、幼稚園の行事、移動図書館等に参加し、地域との交流を楽しんでいる。地域向けの”ほのぼの新聞”を2ヶ月に1回回覧し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や老人会と連携を図り、瓦版“ほのぼの”の回覧や配布で認知症への理解や協力の依頼に取り組んでいる。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の目的や意図を全職員が理解し、各自の評価を事業所の評価としてまとめ、新たなニーズを改善に向け取り組む努力をしている。	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価は全員が記入し、管理者、主任が中心にまとめ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上に向けた意見として事業所の利用状況(利用待ち待機者)などを、地域の方にもっと分かりやすく情報提供できる方法を要望され、回覧板“ほのぼの”に掲載している。	2ヶ月に1回開催し、利用者やサービスの状況、外部評価結果、苦情相談等の報告をし、意見交換をしている。地域の方にも分かりやすい情報提供の要望があり、地域向けの”ほのぼの新聞”に掲載し回覧するなど、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営やサービスにおいて様々な課題や問題が生じた際は積極的に市町村担当者と連携をとり、一緒に解決を図っている。	日常的に市の担当者にサービスの取り組みを積極的に伝えながら、意見をもらい、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体的拘束等排除のための研修を行い、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。</p> <p>H21.11.13実施</p>	<p>身体拘束については内部研修を毎年実施し、職員は理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
8		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修などで高齢者虐待や拘束について学ぶ機会をもち、一人ひとりの職員の意識付けはできている。</p>		
9		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業・成年後見制度について制度を理解する研修の場を設け、必要であれば制度を活用した支援を行いたいと思っている。</p>		
10		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケアに対する考え方や取り組み、また介護保険対象外サービスの事業所の対応可能な範囲について十分説明を行っている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で家族・利用者の意見が気軽に言える状況づくりに努めているが、不満や苦情を積極的に聴く機会に不安がある。ただ、会議の中で2ヶ月間の苦情や不満の対応事例をは情報提供している。8月より介護相談員が変わったが特に問題なし</p>	<p>家族会総会や電話、運営推進会議等で利用者や家族から相談や苦情を聞いて、その内容を運営に反映している。苦情の受付体制や処理手続きを定めており、介護相談員が月1回訪問し、利用者と話している。</p>	
12	(8)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションに心がけ職員が自分の意見が言い易い状況づくりに心がけている。また、出てきた意見や提案についてもサービスの向上に向けた取り組みを心がけている。</p>	<p>月1回の主任会議の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、個別にも、介護日誌の提出時に管理者が職員から意見を聞いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の疲労やストレスに気を配り、勤務の交代や年次有給の要望にできる限り応じている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、認知症ケア研修会(外部)に参加1~2名。内部研修については年間計画に基づき、月1回程度実施できている。隣接の小規模多機能型居宅介護との職場相互研修を実施した。	「情報の公表」の調査項目の研修内容を参考に、年間を通しての計画的な研修の機会が設けられている。また、外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができ、資格習得のための勤務体制の調整にも配慮している。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内に同事業を実施している事業所に連絡を取り、ネットワークづくりや相互の情報交換を行い、サービスの質の向上につなげたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人に会って健康状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族の立場に立って、今家族が求めているものは何かを把握し、事業所としてどのように対応するか話し合っている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の実状や要望をもとに、その時点で今何が必要かを見極め、支援できるように日頃から関わりを大切にしている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、一緒に一日を過ごし日々協力し合い生活(食事・洗濯)を送っていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を機会あるごとに伝え、今起きている課題やニーズにどのように支援するか、家族と事業所が一緒に考えるような関係を築いている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人の面会や家族の連れ出しに頼っているのが現状である。働きかけとしては、年賀状や暑中見舞いなどのあいさつ状で保てるようにしている。	友人や親戚の面会、移動図書館等馴染みの人や場の関係を保つ支援をしている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士過ごせる場面づくりをするなど、職員は常に利用者アンテナを向け不愉快な気持ちにならないように支援している。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られてからは、ほとんど付き合いがないが一部の方については年賀状程度の関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいのか、何が最良なのかを生活全体で捉えられるように努力している。	日常生活の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、申し送りノートに記録している。困難な場合は家族に相談したり、本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの暮らしの情報の大切さを理解していただき、プライバシーに配慮しながら情報を得るようにしている。また、入所したからといって、急に生活リズムを変えるのは困難な為、本人の生活リズムを把握した上で対応している。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の部分的な問題や断片的な情報の把握に陥らず、一人ひとりの一日の生活の流れから、その人全体の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の思いや意見を日ごろの関わりの中で受け止め、計画書に反映させている。また、ケアカンファレンスで出合った職員間の意見反映により、より充実した介護計画書が作成できるようになってきている。	本人、家族の思いや意見を日常生活の中で、聞き取り、月1回のカンファレンスで本人、家族の希望、主治医の意見を参考に、全職員で話し合い介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録などは個別のファイルがあり、いつでも確認できるようになっている。今後は、日々の記録から、介護計画の見直しに活かしていきたい。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院はもちろん、定期通院介助や散髪支援程度で十分とはいえない。ただ、心身の状態に応じて必要な方には隣接の特別浴槽や特殊車両(車椅子対応)を利用している。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、本人が地域の中で暮らせるように、公共機関の利用や地域団体への協力を呼びかけている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	画一的に事業所の協力医療機関をかかりつけ医にすることはなく、各々の今までのかかりつわりを大切にしている。必要に応じて、受診の支援をしている。	利用者や家族の希望を大切に、協力医療機関による受診のほか、今までのかかりつけ医においても継続受診の支援をしている。そのほかの皮膚科や泌尿器科など必要に応じて受診の支援をするなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護職やかかりつけ医の看護師と気軽に話し合える関係を築き、必要な情報としては提供できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージをできるだけ防ぎ、受け入れ可能な段階でなるべく早く退院できるように、週1回程度来院し、病院関係者と情報を共有し状態把握に努めている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に対する事業所の方針を伝えて、理解を得ている。(認定更新時に要介護4の認定ができた段階で、話し合いを行い入所施設などの登録をする。受け入れ可能時まで当事業所での生活は継続できるなど。)	契約時に重度化した場合の対応について説明すると共に、状態の変化があるごとに家族の気持ちや利用者の思いに注意を払い、利用者・家族・関係者と相談しながら次の支援につなげていくことへの方針を全員で共有している。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生マニュアルに基づき対処方法の確認やAEDの使い方、心配蘇生法など研修の中で取り組む事ができた。平成22年1月に実施。今年度は11月に予定である。H.22.1.に実施。	マニュアルを作成し、事故防止の取り組みや事故発生時に備えた研修を行い、一人ひとりの転倒リスクスコアシートを使った転倒防止対策は安全面の確保に成果を得ている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月に『非常災害時の対応に関する研修』を内部研修として実施し、消防署・駐在所・地域住民・消防団など多くの関係機関と総合訓練を実施することができた。	運営推進会議で非常災害時の対応方法について議題として、消防署、駐在所、地域住民、地区消防団等多くの関係機関と総合訓練を行い、地域との協力関係を構築している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	9月に『倫理及び法令遵守に関する研修』を内部研修として実施し、利用者の尊厳と法律の中で個人の尊厳について学んだ	人格の尊重やプライバシーについて定期的に研修を行い、職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解しており、言葉かけや対応に配慮している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく、生活の中で選択できる場面や言葉かけを工夫した結果、自己表現・自己決定できる方が増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっているが、無理強いや抑制はない。その日その時の本人の気持ちを大切に、できる限り個別性ある支援に努めている。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的には本人の意向で決めている。ただ、自己決定が難しい利用者は職員が支援している。美容については地区の美容師に訪問美容を依頼し、できる範囲で本人の希望を聞いている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入から調理・配膳・食事・片付けに至るまで職員と利用者が一緒に楽しみながら行っている。時には外食、お弁当なども取り入れ、食が楽しいものになど努めている。	利用者と職員と一緒に食材の購入、調理、盛り付けをし、一緒に食事をして、片付けなども役割分担ながら楽しい時間を過ごしている。利用者の健康状態や好み、嗜好にそって献立を立てている。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医との連携により、一人ひとりの健康状態に合わせた食事提供ができています。また、摂取量については大まかではあるが把握ができています。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底とその重要性の理解はできています。もちろん、義歯の手入れもきちんとしている。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握することにより、尿意・便意の訴えの希薄な利用者にもトイレでの排泄を心がけている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、排泄の自立を促すために、時間を見図りながら声をかけトイレに誘導している。退院して事業所に戻った場合も、生活リハビリをしながらオムツはずしを行うようにしている。	

白鳩老人グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼ることなく、自然排便に心がけ、適度な運動や食材に気を使っている。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っている。ただ、夕食後や就寝前の入浴には至っていないため、入浴時間について希望には添えていないが、入浴方法は好みやくつろぐ入浴の実施に努めている。	入浴は毎日13時半から15時半の間は入れるようにしており、一人ひとりゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて、特浴、足浴、シャワー浴を行っている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や希望によりゆっくり休息できるように支援している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表や診療日誌などにより、全職員の理解や徹底はできていると思う。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事づくり、洗濯物たたみ、外庭の掃除など一人ひとりの力が発揮できる場面作りに心がけている。また、移動図書館などを利用し、外出の機会をもっと増やしたい。	ラジオ体操や折り紙、園芸、卓球、ボーリング、カラオケ、食事づくり、下着の洗濯、洗濯物たたみ、外庭の掃除、ごみ出しなど一人ひとりの生活歴や力できることを活かした場面作りをし、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で定期的に外出する行事を組み込んでいるが、その日の希望で出かけることは、近隣を散歩する程度しかできていない。また、一人ひとりの外出の思いを家族に伝える支援はしているが、機械としては少ない。	毎日利用者が交替で食材の買い物に出かけたり、その日の希望で、散歩やラジオ体操、移動図書館等戸外に出かけられるように支援をしている。年間の定例行事で桜見、コスモス、フラワーランド、外食等出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や外出の機会に預かり財布を一人ひとりに手渡し自分で支払いができるように支援している。</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎年、年賀状と暑中見舞いを出す支援を欠かさず行い、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用での空間は利用者の手作りで色々創意工夫をしている。自分たちの作り上げた物が生活に取り入れられているため、馴染みの空間として落ち着きを感じる。</p>	<p>居間、台所、食堂は明るく日当たりが良く、ソファや椅子に座り、テレビを見たり、中庭の景色を眺めてたりして楽しんでいる。畳の間は皆の憩いの場となっており、利用者が作った作品が飾られ、生活感や季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるように工夫をしている。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースのあちこちに、少人数で過ごせる空間を作り、居心地の良い空間として活用してもらっている。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>持ち込みに制限はない。ただ、事業所で画一的に設備がされたもので間に合うため、配置の工夫で居心地の良さを感じてもらっている。</p>	<p>居室は備え付けの箆笥、ベット、椅子が設置され、使い慣れたテレビや写真、人形、本人の手づくり作品が飾られ、配置の工夫により、居心地良く過ごせるように工夫をしている。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人の活動性を維持し安全でかつできるだけ自立に向けた工夫として、車椅子・PTイレ・老人車を活用している。</p>		

2. 目標達成計画

事業所名 白鳩老人グループホーム

作成日: 平成 23年 2月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	個人情報保護規定や個人情報保護に対する基本方針は法人で定めているが、介護関係事業者における利用者の個人情報の利用目的が公表されていない。	利用者の個人情報の「利用目的」を公表する。	利用者及びその家族の個人情報の利用目的を明記し、事業所内に掲示するとともに利用者又はその家族に対して文章で配布する。	2ヶ月
2	37	個人情報保護規定や個人情報保護に対する基本方針は法人で定めているが、公表に不足がある。	個人情報保護に対する基本方針をパンフレットに掲載する。	パンフレットの見直しと個人情報保護に対する基本方針を記載する。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。